

(4) 高齢者の人権

はじめに

長野県の高齢化の状況は2000年現在で65歳以上の高齢人口比率21.2%（全国平均19.1%）よりも高く、2010年から2015年の間には25%を超え「4人に1人以上が高齢者」の時代を迎え、さらに2025年には28%に達すると予測されています。

急速な高齢化で、今や「介護」が最大の老後不安になったことは間違いありません。高齢になっても、障害があっても、家族がいてもいなくても、人間としての尊厳を保ち、安心して暮らせるような社会システムを作り上げていくことは誰にも共通する願いです。「公的介護保険制度」は、こうした背景から誕生した高齢者を介護する新たな社会的支援システムです。

しかし、社会的支援システムさえ整っていれば安心かといえばそうではありません。高齢者の多くは、できる限り住み慣れた家庭や地域で生活を送りたいと願っています。また、「痴呆のお年寄りを支えていくために必要なもの」の第1位に「周りの人たちの理解」が挙げられています。高齢者や介護が必要なお年寄りを理解し、受け入れ、普通にふれあうことができる地域でなければ、安心して老いていくことはできないのです。

そのために、学校、家庭、地域において、障害があっても、介護が必要になっても、一人の人間としての尊厳が大切であると気づくための交流会や、高齢者の病気や障害の症状などについて、正しい理解を深める勉強会などを行う必要があります。

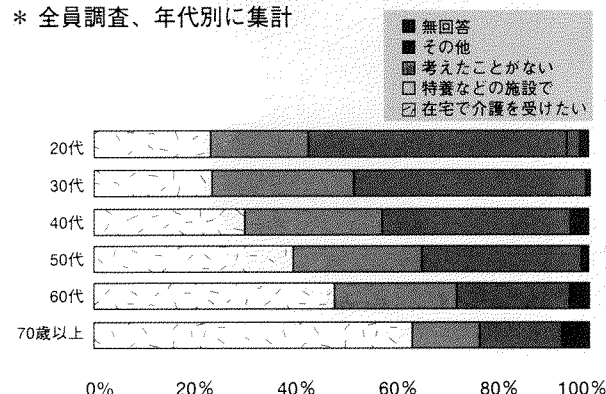
生きていれば人間誰しも歳をとるのは当然のことです。急速に進む高齢化社会について自分の問題としてとらえ、すべての高齢者が、尊厳をもって暮らすことができる地域づくりを今から実践していきましょう。

■高齢社会に関する県民意識調査結果

（長野県が県内の満20歳以上の男女2,000人を対象に平成10年2月に実施）

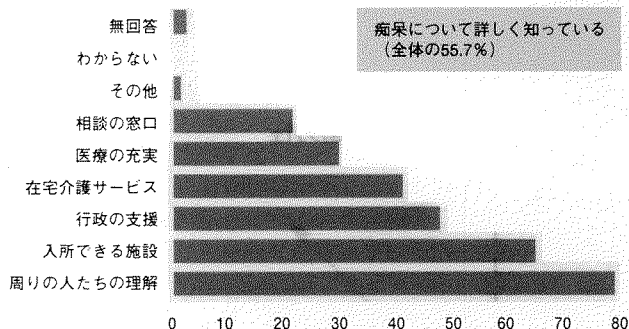
<自分が介護を受けたいところは？>

* 全員調査、年代別に集計



■痴呆の老人を支えていくために必要なものは？

* 「痴呆について詳しく知っている」と回答した人（全体の55.7%）に調査



アウトドアを楽しむ
「かんぱい～」



「わたし」と「あなた」
そして「みんな」の人権